

人が育つ 地域づくりの未来像

子どもの学び、地域住民の生きがいづくりを行う地域学校協働活動推進員の活動を紹介する通信

「おはよう」から始める繋がりづくり ～登下校を住民が見守り18年～

田近 正英 地域学校協働活動推進員(古川西小学校区)
高山市出身。結婚を機に飛騨市へ移住。過去にはPTA会長を経験したほか、発足時から関わる見守り隊としても活動する。



今年で18年目を迎える登下校を見守る「見守り隊」にも尽力してきた田近さんは、「保護者、地域、学校の三位一体でまちづくりを進めていく必要がある」と言います。その真意とは？活動内容や奮闘劇、展望などについて伺いました。

「見守り隊はどのような活動をしてきたのですか？」
高山に子どもたちの通学を見守る保護者の会があるという話を聞いて、古川で「見守り隊の役割も見直さなければ」と協力を求められた。当時の学校長に地域学校協働活動推進員をつくりたいとの思いがあったように、見守り隊の役割も見直さなければ、協力してもらえないか」と私に推進員の声がかかりました。

「見守り隊はどのような活動をしてきたのですか？」
当時の学校長に地域学校協働活動推進員をつくりたいとの思いがあったように、見守り隊の役割も見直さなければ、協力してもらえないか」と私に推進員の声がかかりました。

「地域と学校はどのように関わることができるのでしょうか？」
例えば行事に対する協力は、一つの手法だと思えます。私たちが頃は保護者の方を指導員に引き寄せ、子どもたちの学びの場を確保し、地域と学校が連携して活動するよう努めました。

「活動の中で、気になっていることはありますか？」
保護者の負担をなくするという流れは少し気になります。保護者の役割が減ると、私達の負担が増えることになる。地域、学校、保護者の協力関係が大切だと思っています。



古川西小学校地域学校協働本部やPTA、及びスポーツ少年団等で連携して実施された「グラウンドの草取り活動」

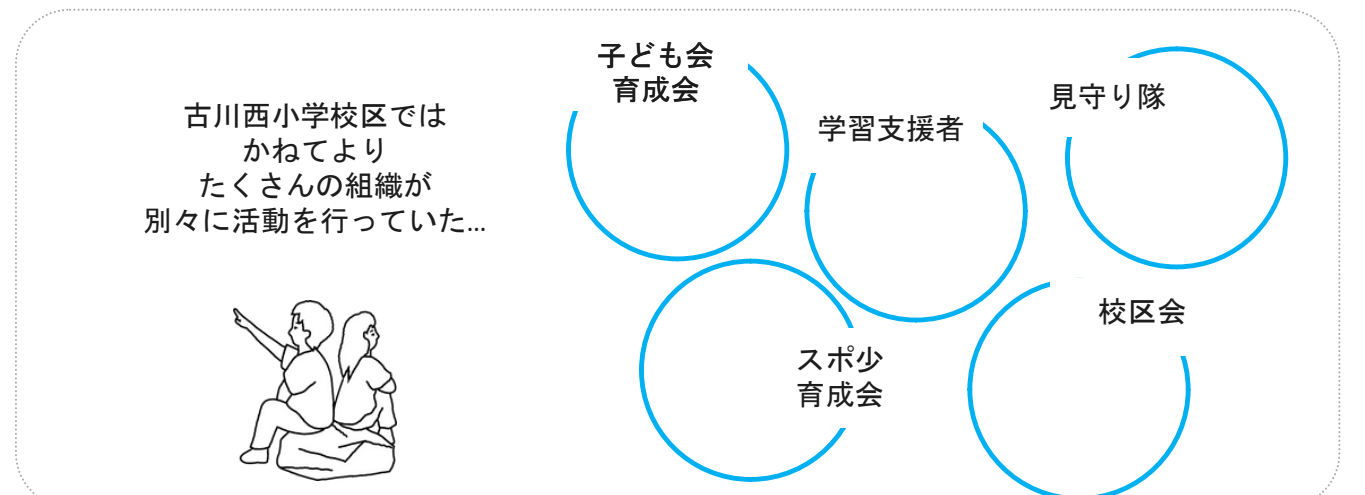


全文はこちら↓

「目指すは、誰とでも「すぐに助け合える」古川がどんな地域になって欲しいですか？」
年齢、地域関係なく、地域に住む人の名前と顔が一致するように、コミュニケーションがとれるように話せば、いろいろな助け合えるようになる。そういうね。若者が地域に残りたい。大学や専門学校で、都会へ行くのは、将来戻ってきたい。大学や専門学校で、都会へ行くのは、将来戻ってきたい。

※こちらの内容は公開時点（2023年2月20日）の情報を基に一部修正しています

みんなで将来の担い手を育てんかな ～ふるさとを誇りに思い 心豊かで たくましい 古川西の子～



子どもたちを育むという共通の認識をもとに、ひとつのサポーターズクラブとして立ち上げ、交流を行えるようにしよう！

サポーターズクラブ交流会の開催

先進事例を学ぶ
「わがまち わがごと わがままに」
・わがまち「願いの共有」(何のために、どうしたいか)
・わがごと「当事者意識」(私にもできることがある)
・わがままに「連携・協働」(みんなで願いの達成を！)

団体ごとの交流会
5つの分科会に分かれ、活動内容や活動に対する想いの交流を実施
見守り隊や畑お助け隊、防災士などたくさんの方にご参加いただきました！
【感想】
・見守り隊の活動を広く周知して、さらに協力者を募りたい
・ともに活動に協力する地域の方の想いを知ることが出来てよかった
・今後も、是非このような交流会や研修会を開催してほしい
令和6年度も開催予定です！

古川西小学校地域学校協働活動推進員
森本 義彦 ・ 田近 正英 ・ 田中 博 ・ 平中 公貴 ・ 築山 紀代美

地域学校協働活動、飛騨市学園構想の最新情報はこちらから！ (Facebook)

